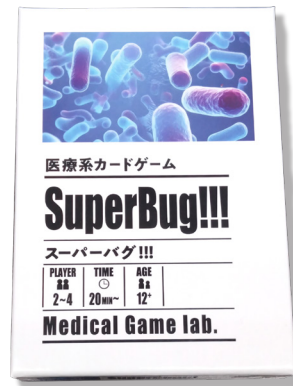


# 『SuperBug!!!』をASOBOU 出張版



こんにちは! 自称 a-game 宣伝部隊のセイゴです。今回は 2024 年ゲームマーケットの話題作『SuperBug!!!』を IED ボードゲーム広報さん《以下「部隊長」》と遊んでみました。

ゲーム当日、興味があってブースに伺った時にはすでに売り切れ…後日再販が決定したので制作された「医学ゲームらぼ」様にご連絡してみたところ a-game でも取り扱いできるようになりました!

大変ご好評いただき、追加の入荷分に合わせて皆さんに少しでもゲームの魅力が伝わるよう、拙筆ながら『ASOBOU 出張版』として私のプレイレポートをお届けします。

『SuperBug!!!』は医療機関における様々な菌との戦いをシミュレートしたカードゲームです。ゲームには実在の菌や薬が登場し、治療の最前線を垣間見れる内容となっています。

画像はセットアップが完了した状態(下図の「起」の画像)です。プレイヤーは山札から 5 枚引いた状態からスタートします。山札には菌を倒したり増殖を抑えたりする〈抗菌薬カード〉の他、スタッフや設備などを表す〈構築カード〉、衛生の徹底といった現場の取り組みを表す〈即時カード〉がランダムに入っています。ゲームは(1)の順で進行し、抗菌薬で菌を倒して貢献度を稼ぎ、最初に貢献度を 15pt 獲得した人が勝利となります。

サプライ山札を構成する〈構築カード〉、〈即時カード〉は自由に配分を決めることができ、シナリオのような役割をします(ルールに構成例がいくつか記載されているので、今回は一番難易度低めな構成を選択しました)。

## (1) ゲームの手順

1. 〈微生物カード〉を選ぶ(最初は固定)
2. 手札から〈抗菌薬カード〉から 1 枚設置、
3. 〈構築カード〉・〈貢献カード〉を 1 枚設置、もしくは〈即時カード〉を 1 枚使用 ※1,2,3 は順不同
4. 手札が 5 枚になるように山札からカードを引く  
※2 微生物を倒した場合は新たに微生物カードを選ぶ
5. プレイヤーを交代

〈サプライ山札〉  
〈即時カード〉、〈構築カード〉、〈抗菌薬カード〉  
をシャッフルしておく

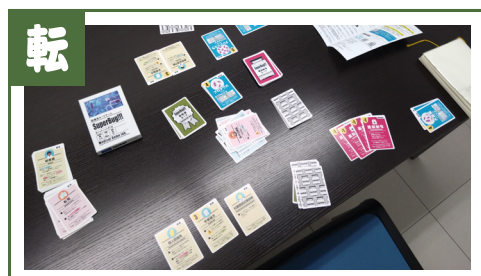


微生物カードは、最初は溶連菌固定でスタートしますが、ゲームが進めば手札に合わせて自由に選択できるようになります。

菌を倒すには薬を使えば良いのですが、強い薬を使えば良いというものではありません。強すぎる薬を使うと〈薬剤耐性〉のカードを引くことになり、それが一定貯まると微生物は耐性菌に変化し、ますます薬が効かなくなってしまうのです。構築カードで変化を抑制するか、できるだけ難易度の高い微生物の処理を相手に押し付けるとよさそうです。

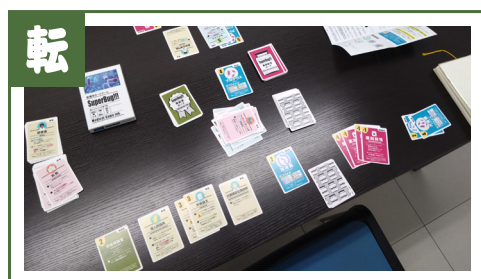


第 2 ターン。最初の溶連菌はお互い難なく撃破。部隊長は堅実に点数の小さな微生物を選択しますが、私は、最近腹痛を起こした腹いせもあり、得点も難易度も高めな大腸菌を選択。運悪く強力な抗菌薬を引いてしまい仕方なく速攻で薬剤耐性のカードを引くことになりました。薬剤耐性カードには貢献度を下げる効果もあってできるだけ引きたくありません。幸いにも有利な構築カードを引くことができましたが、プレイヤー人数が増えるほど構築カードは入手しづらくなり、運用に頭を使いそうです。昨今の人材不足が身に沁みますね。



第 3 ターン、私はやはり薬に恵まれ強力すぎる抗菌薬で薬剤耐性を順調に獲得していきます。しかし、今回も運よく〈集中治療医〉のカードを引いたので一気に大腸菌を倒すことができました。ただし、薬剤耐性のカードを引きすぎて貢献度は ±0 です。

サプライ山札のカードにはフレーバーとして Tips が記載されており、医療現場の興味深い内容が記載されていて賢くなった気になります。1 ターンにやるのがシンプルなのでこの辺りからルールを理解してゲームに集中できるようになりました。



第 4 ターン、部隊長も数値の大きな微生物に挑戦していました。「作戦がある」と部隊長はニヤリ。手札と相談しながら戦う微生物を選べるので戦略性がありつつ、気持ちよくゲームが進行していきます。

そんな中、私は相手のデッキから学术论文のカードを篡奪しました。論文を強奪しつつ、初めて貢献度カードを引きました。貢献度カードには〈學術奨励賞〉などがあって大量得点のチャンスですが、効果のないこともあります。ここで私は貢献度を大きく稼ぎました(ほとんど不正ですが)。



第 5 ターン、部隊長は引き続き数値の大きなプロテウス菌を攻略。カード運が良くないみたいで薬剤耐性カードもだんだん増えていきます。

私は手堅く数値の小さな微生物を選択、ここで初めて抗菌薬のペニシリンのカードを引き当てました。Tips によると世界初の抗菌薬なんだとか。ゲーム内では汎用性が高く非常に優秀な薬になっています。このターン微生物を倒すのに必要なカードの枚数を減らす構築カードを引き当て、ペニシリンで溶連菌を倒し勝利へ王手、続く第 6 ターンで勝利しました。

## 感想

ルールは簡単で、短時間で何度もプレイできるやりがいのあるゲームだと感じました。

またサプライ山札の加減による難易度の調整、構築カードから意図的に有能な人材を減らしてやばい現場を再現するシミュレーション性など長く遊べるゲームだと思います。先にも書きましたが今回 2 人かつ低難易度で遊んだため、カード運にかなり左右されましたが人数を増やすことで頭を使うゲームになると思います。価格も手頃で気軽に遊べるのでぜひ手に取ってみてください。